

# 曳網時間帯が底びき網漁業の CPUE（単位努力量あたり漁獲量）へ与える影響

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

部門名 水産業－資源管理－底びき網

担当者 原聡太郎・池川正人・安倍裕喜

## I 新技術の解説

### 1 要旨

福島県では 2021 年 3 月で試験操業が終了し、同 4 月より本格操業に向けた移行期間に入っている。現在底びき網の操業は概ね朝方を中心に行われているが、今後の漁獲量増大と資源の持続的な利用の一助のため、震災前（2010 年）の底びき網漁業における標本船日誌データを用いて、各魚種の曳網時間帯ごとの曳網時間あたり漁獲量（以下、CPUE）について整理した。

その結果、魚種によって時間帯により CPUE が変化し、「夜間に CPUE が高い」、「昼間に CPUE が高い」、「昼夜で変化がない」の 3 つのグループに分けられた。なお、5 時～17 時を「昼間」、18 時～4 時を「夜間」とした。

今後の漁獲量増大と資源の持続的利用を両立していくには、朝方の操業だけでなく、夜間操業等も取り入れ、魚種によって漁獲圧を分散させる必要があると思われる。

(1) ババガレイを除いたカレイ類や、マアナゴは夜間に CPUE が上昇していた（図 1 (①)）。

(2) ヤナギダコ、ヤリイカ、マアジ等は昼間に CPUE が上昇していた（図 1 (②)）。

このうち、マアジ、ヤナギダコ等では朝方と夕方に CPUE が高くなる特徴がみられた（図 1 (②') ）。

(3) ヒラメ、キアンコウ等は昼夜で変化はなかった（図 1 (③)）。

(4) 時間帯ごとの CPUE の変化は、各魚種の摂餌行動等の生態的特徴により生じているものと思われる。

### 2 期待される効果

(1) 底びき網の操業拡大計画のための参考資料となる。

### 3 適用範囲

(1) 底びき網漁業者、普及指導員、水産研究機関

### 4 普及上の留意点

(1) 震災前のデータを利用した解析である。

(2) 操業場所の移動については考慮していない。

## II 具体的データ等

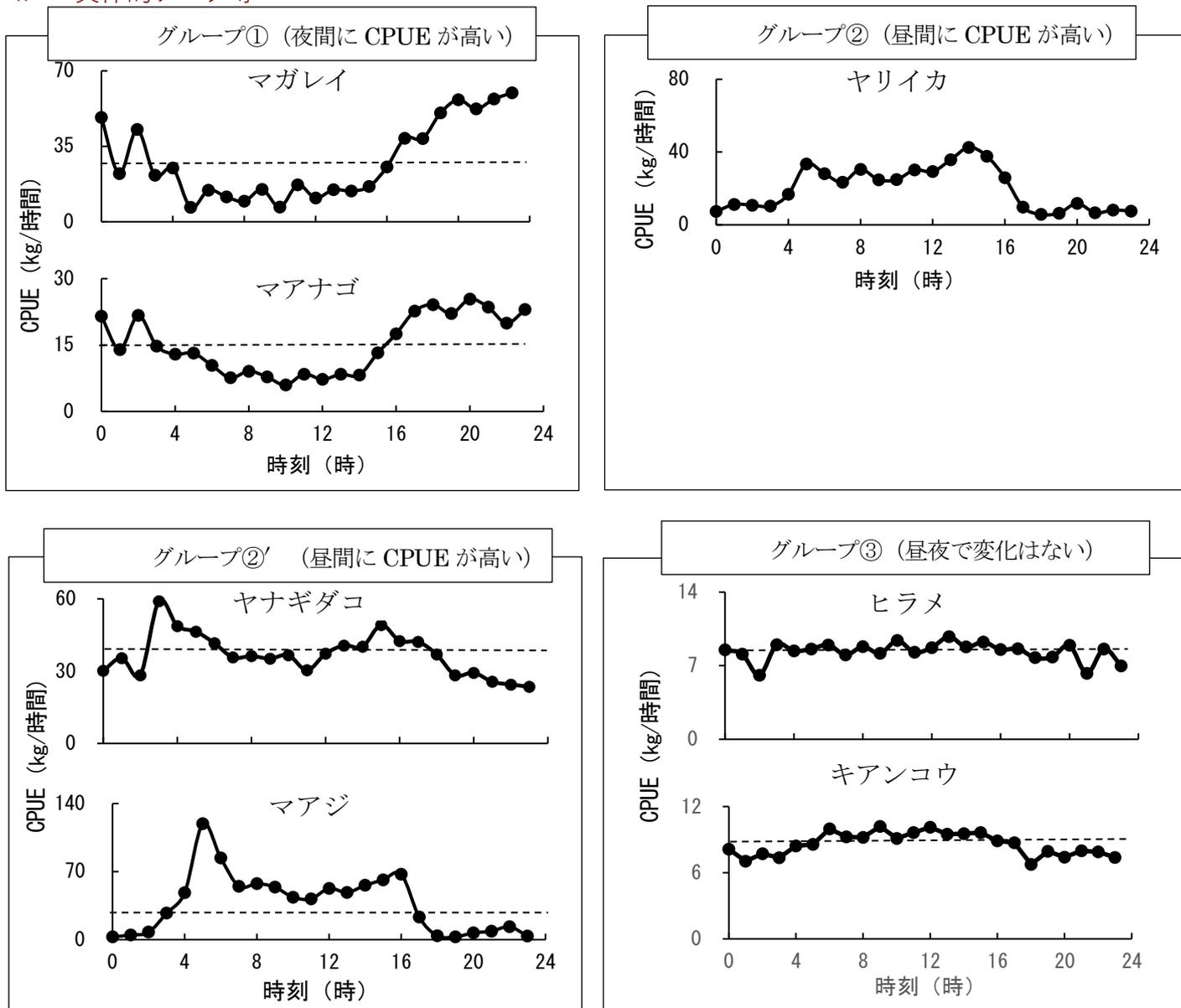


図1 グループ別 CPUE の変化 (左上図：グループ①、右上図：グループ②、左下図：グループ③  
点線：平均値)

## III その他

### 1 執筆者

原聡太郎

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 カレイ類資源管理手法の開発

### 3 主な参考文献・資料

- (1) なし